

今日のトピック

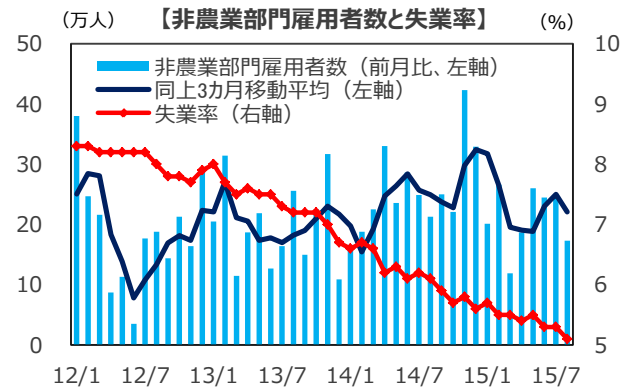
米国の雇用統計 (2015年8月) 労働需給は着実に改善

ポイント1 雇用者数は17.3万人増 サービス業が引き続きけん引

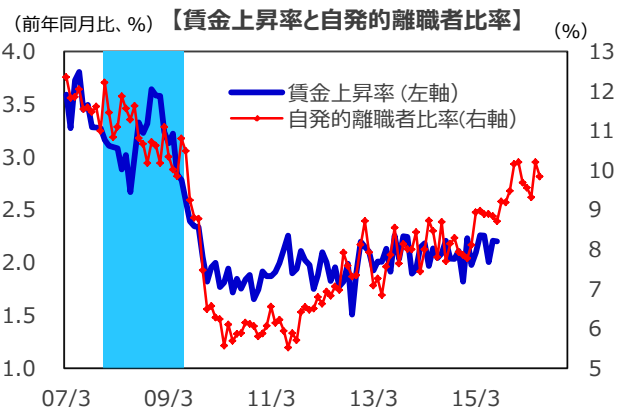
- 8月の非農業部門雇用者数は前月比17.3万人の増加となり、市場予想（ブルームバーグ集計）の同21.7万人増を下回りました。
- ただ、過去2カ月で合計4.4万人ほど上方修正されており、8月の下振れ分を埋めた形です。雇用の増加ペースは3カ月移動平均で22.1万人と、20万人超を維持しています。
- 8月は医療やレジャー・娯楽などのサービス業が引き続き雇用の拡大をけん引しました。

ポイント2 失業率は5.1%に低下 賃金上昇率は前年比2.2%増

- 失業率は前月の5.3%から5.1%に低下しました。低下の要因は就業者数の増加、つまり労働需要の拡大であり、「質の良い低下」と評価できます。
- 一方、時間当たり賃金は前月比0.3%増となり、前月の同0.2%増から加速しました。前年比では2.2%増となります。景気後退前の水準を回復するには到ってませんが、労働需給の改善が進んでいることから、今後、賃金上昇率は高まる見通しです。



(注) データの期間は2012年1月～2015年8月。 (年/月)
(出所)米国労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注) 賃金上昇率は2007年3月～2015年8月。
自発的離職者比率は2006年5月～2015年8月。
自発的離職者比率は10カ月先行。網掛けは景気後退期。
(出所)米国労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 労働需給は着実に改善、10月以降年内に利上げ開始の可能性

- 8月の雇用統計は、月20万人を超える雇用者増のペースが確認されたことに加え、失業率や就業率、賃金など関連する指標を見ても、労働需給のタイト化が着実に進んでいることを示すものでした。
- 中国経済の動向など海外情勢に不透明感が残ることを踏まえると、9月の利上げは難しいと見られますが、10月以降年内の利上げの可能性は十分にあると考えられます。

ここもチェック! 2015年 9月 2日 米国のISM製造業指数 (2015年8月) 2015年 8月21日 「FOMC議事録」と金融政策 (米国)

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。